
社会教育会館あり方について話し合う会

日 時：平成 18 年 11 月 20 日〔月〕 午後 7 時 00 分～午後 8 時 30 分

場 所：大津市浜大津一丁目 4 番 1 号 社会教育会館〔1 階〕

出席者：19 名

1. あいさつ〔大津市都市計画部 施設監 寺田智次〕

- ・ 旧大津公会堂【社会教育会館】の保存と活用を考える市民フォーラムを先日開催させていただいたが、時間が足らず、十分に意見を言ってもらうことができなかった。本日、発言していただく機会としてこの会を開催したので、自由にご発言いただきたい。

2. あいさつ〔大津まちなか元気回復委員会 委員長 酒井英夫〕

- ・ 大津まちなか元気回復委員会は、これまで商店街の問題として見られがちであった「まちの活性化」を住民の問題と捉え、自治連合会が中心になって、住民の視点から活性化に取り組もうと組織された団体である。
- ・ まち歩きやマップづくり、まちなかコンサートの開催などの活動も行っているが、古都大津の玄関口である大津百町に位置するこの社会教育会館を今後のまちづくりに活かさないか、その保存と利活用についての検討を進めている。
- ・ 中心市街地の歴史資産、資源を活用するとともに、市民がいつまでも住みつづけたい、訪れる人が是非また訪れたいと実感できるまちを築いていきたい。
- ・ 本日は、われわれの考え、提案をお聞きいただいた上で、今後の社会教育会館のあり方について忌憚のないご意見をいただきたい。

3. 大津まちなか元気回復委員会の提案

〔大津まちなか元気回復委員会 社会教育会館利活用検討部会 部会長 上田良三〕

- ・ 社会教育会館は、大津商工会議所と市立図書館を併設する大津公会堂として昭和 9 年に建設された。
- ・ 戦後は、我が国における最も早い時期の公民館となるなど、今日まで地域住民にとって身近な施設として、また、「昭和」ロマン漂う風格ある建物として多くの市民に親しまれてきた。
- ・ 滋賀県近代化遺産（全 271 件）の調査報告においても、大津市内に現存する建築物の中でも意義あるものとしてランク付けされており、歴史的にも価値の高い建物だけに是非保存したい。
- ・ 特に外観はスクラッチタイルを貼り、古都大津にふさわしい風格を持つ近代建築物であるため、改修後においても、外観については現状を維持したい。
- ・ 中心市街地の歴史資産、資源を活用するとともに、市民がいつまでも住みつづけたい、訪れる人がまた訪れたいと実感できるまちを築いてまいりたいと、この中心市街地のまちづくり、しいては活性化に役立てたいと考えている。
- ・ 市民の誰もが気軽に立ち寄ることのできる空間、憩いや語らいを楽しむことのできる空間を提供する、中心市街地における魅力あふれる市民交流拠点施設として、また、地域文化や産業、芸術などを伝承できる観光客もが気軽に立ち寄ることのできるまちなか観光の拠点施設

として利活用を図りながら中心市街地の活性化に寄与する、それが委員会の利活用提案の骨子である。

- ・ 利活用の内容としては、
 - ① 各種イベントなど多種多様な使い方ができるホール
 - ② 付近住民の憩いの場、観光客の休憩場所を確保しながら、チャレンジショップやまちなかの物産の展示即売会、スモールオフィスも開設できるフリースペース
 - ③ 町家情報センターやまちなか案内などの情報発信スペース
 - ④ レストラン、レストランバー、カフェ等の民間が主体となる店舗
 - ⑤ 個展、絵画展などの開催のための市民ギャラリーを利活用の柱とし、あわせてEVの設置やトイレの改善、増設といったバリアフリー化も図ってまいりたい。
- ・ 社会教育会館を魅力あふれる施設として再生を図り、中心市街地のまちづくりに、活性化に寄与するため、今後の利活用について考えてきた。
- ・ 市民の皆さまに末永く愛される施設として活かしていくためには、市民の皆さまの思い、魂が宿る施設にしなければならないと思う。
- ・ 耐震補強にかかる費用や今後の維持管理経費など検討すべき課題は数多くあるが、今後、この社会教育会館をどうしていくのか、どうあるべきなのかについて皆さまのご意見を頂戴したい。

4. 意見交換

- ・ 私見ではあるが、この建物は歴史のある文化財的な建物だ。まちづくりの拠点として使われているので、改修して使っていくべきだと思う。
- ・ ガラスはゆがんでいるように見えるような昔の板ガラスで、現在では作れない。これもひとつの財産だと思う。
- ・ 歴史が染み付いた建物なので、つぶしてしまったら歴史を肌で感じるができなくなる。
- ・ 大切な財産であり、次の世代に大切に引継ぎ、歴史を伝えていきたい。風情もある。
- ・ 資料にもあるとおり、社会教育会館は浜大津の文化的拠点であった。
- ・ 提案はいろいろな機能を盛り込んでいるが、いいことばかりではあるが、これではスペースが足りないと思う。もっと内容を絞って、これという特徴あるものにすればよいと思う。
- ・ この建物は名称や用途が変わってきた歴史を持っている。その歴史についても触れるスペースが欲しい。
- ・ 中心市街地になじみのある施設、文化継承に関する施設が必要。例えば大津絵や組み紐といったものを伝えていくべきで、体験スペースを作ってはどうか。
- ・ この建物は大津に残る近代建築物のひとつで貴重な建物である。
- ・ 市が本気でこれからも維持していく気があるのならば、もっと市民にアピールしてもらいたい。市も覚悟を持って取り組むべきだ。
- ・ 「大津にはいいものがあるな」と思ってもらえるようなものにしてもらいたい。
- ・ 歴史博物館は江戸時代までの資料は豊富だが、近代になると内容が乏しい。大津として後世に残したいものや歴史博物館でできないものを持ってきてはどうか。歴史博物館の職員と相談して選べばよいと思う。
- ・ 来られた方が一服できる場所が必要。「もう一回、行こうか」と思えるところになってもらい

たい。

- ・ 観光スポットは点在するのではなく、まとまってある方がよいと思う。この建物だけでなく、周りも含めた計画が必要だと思う。
- ・ 高岡市へまちづくりの先進都市視察に行ったが、図書館に行くと、勉強をしている学生で活気があった。パソコンを整備するなど、時代のニーズにあった、特色ある計画にするべき。「ここへ行くとあれがある」といった特色が必要である。
- ・ 人が集い、人が来やすいということが建物にとって一番大事だと思う。あそこに行けばあの人に会えるという気持ちが必要で、庶民的な雰囲気欲しい。
- ・ 大学生にも集まるところになって欲しいし、年齢を問わず人が集まれるところがよい。
- ・ この建物はまちづくりの拠点だと考えて欲しい。
- ・ 学生が力を発揮できるところがよい。そのためには若い人が集まる必要がある。
- ・ お年寄りの智恵も大切だと思う。
- ・ 市はどのようにあるべきだと考えているのか。空き部屋対策として考えているのか。
→平成15年に3学区の連合会長がここを残して欲しい、住民の方が集まるところになって欲しいという申し出を市長にしている。
→現在は空き部屋があるが、この建物の利活用の要望があったことから空けたものである。
→市民の支持を得るためにも大津まちなか元気回復委員会で原案を考えてもらったが、この利活用は、中心市街地活性化の長いスケジュールの中に入れていく。
- ・ 活性化という目的で利活用を図ることはいいことだと思うが、経済性を重視するのか、市民の理想の場とするのか、どちらかはっきりすべき。
市民理想の場とすれば、維持管理に税金が使われることになる。市民の要望ばかり聞いているとどうしようもなくなる。
- ・ 大津市民に欠けているところは、責任ある発言と行動だと思う。
ここを維持していくには経済力が必要であり、理想の場とするならば財政的負担はどうするのか。目的をはっきりとし、そろそろ議論をまとめていくべきではないか。
- ・ 経営感覚は必要だと思うがそれだけではない。損得勘定抜きで考える部分があってもよいと思うし、そのためには市民の理解が必要である。
- ・ 行政が引っ張っていくべきではないとなると、それを引っ張っていくリーダーが必要。
- ・ 観光で人を呼ぶことが利益をあげることに結びつくと思う。大津駅から寺町通りを通るここへの道筋をなんとかするべき。
- ・ この建物の維持費に見合う利益は上げるべき。
- ・ 明日都浜大津の再開発の経緯を振り返ってみればわかるように「活性化」というのは難しい。活性化は簡単には行かないことを理解するべき。
- ・ 人はとどまるのではなく、流すことが必要。
- ・ 人を引っ張ってくるというのは難しいことだ。動線を整備するには莫大な費用が必要。金で解決できるのであれば、既に市はやっている。
- ・ この建物の写真をもらって、いい建物だと思えるものになってもらいたい。
- ・ 提案の機能はすべて実現できると思う。人が集えば、少しずつでも活性化には結びつく。
- ・ 屋上の利用を検討するべき。屋上に屋根をつけるとか。
→重量の問題から屋上の利用は難しい。壁を増やすことで部屋が細切れにならないようにと思っている。
- ・ この建物は外からは趣きがあるが、内側は建築当時とはかなり変わっている。改修の際には、

木材は大津のものを使うとか、大津へのこだわりが必要。

- ・ この建物は滋賀県の近代化遺産としてピックアップされている。このあたりでは旧琵琶湖ホテル、県庁本館、武徳殿だけであるので、ぜひ残してもらいたい。
- ・ 外側はこのまま残し、内側の残し方を検討するべきだと思う。窓や階段、梁に細やかな細工が施されており、建築当時の本格的なものにして残してはどうだろうか。まちの宝だと思ってもらえるところとなってもらいたい。
- ・ 収入を上げることも考えながら公設民営という形にして、残して欲しいと言った住民として、その責任を感じながら運営を図るべきだろう。
- ・ この建物を残す方向で検討して欲しい。先日のフォーラムでは、外をそのまま残して中をすべてホテルにしたらどうか、という意見も出たが、住民としたら文化的なことや歴史的なことを考えた上で保存したい。
- ・ 建物の雰囲気にあった内装にしてほしい。京都の毎日新聞の、地下の飲み屋のような使われ方がよいと思う。
- ・ 昔はここが大津の核だった。大津は大きく変わったが、この建物は変わらなかった。時代のニーズに合わせて使い方も変われるように。
- ・ 提案は検討された結果だと思うが、長等、逢坂、中央の3学区で、残したいという熱意は沸いているのか。
- ・ ここを残すということはお金がかかる。残すとなると責任が必要。その責任をとれるのか。
- ・ ここを残したいなら地域をあげた活動が必要。検討だけでなく、保存運動のような動きがあればよいと思う。熱意がないと、一時的なものに過ぎない。
- ・ 耐震補強をした場合にあと何年もつのか。費用対効果についての検証とそのことに対する市民の理解が必要。
- ・ 駅から人が集まるにはどうしたらよいかを考えなければならない。交通を含めた人の流れを考えるべき。この建物の活性化だけではなく、もっと大きく捉えるべきだろう。

5. まとめ

[大津市都市計画部施設監 都市再生室長 寺田智次]

- ・ この建物に関する思い出、思い入れについてはよく語られるが、残してほしいという強い思い、愛着を具体的なアイデアとして、周辺の住民も交えて議論しながら詰めていきたい。
- ・ 明日都は離れ小島だと言われたが、子育て総合支援センター等もあり、現在では人は集まって来ている。
- ・ 力のあるテナントが入れば人を寄せつける。しかし、そのことで建物の雰囲気を壊してしまわないよう注意が必要。
- ・ 欲張りなことだが、誰もが気軽に立ち寄れる雰囲気があればよいと思う。
- ・ 今年度中に利活用の骨子案をまとめたい。
- ・ ここに来ている人以外にも強い意志を示してもらいたい。

[閉 会]

旧大津公会堂保存・活用を市民ら議論

大津市浜大津1丁目の旧大津公会堂(旧大津公会館)の保存と活用を考へる市民フォーラムが、このほど同会館で開かれた。できてから70年以上たったことなどから、耐震補強工事も含めた今後の方針を話し合おうと、市や周辺学区が主催、中心市街地に残る歴史的建築物をまちづくりの生か



耐震補強工事と今後の活用策が検討されている社会教育会館(旧大津公会館)＝大津市浜大津1丁目で

そうと、市民らが熱心に話し合った。同会館は1934(昭和9)年、大津商工会議所と市立図書館を併設する大津公会堂として完成した。地上8階、地下1階建てで、スクラッチスタイルで水準を強調したモダンな外観。47年5月には日本で「第一号」の公民館となった。76年に公民館の役目は終えたが、文化活動の拠点や、市の急務診療所として活用された。現在は市都市再生室や大津青年会議所が入居。天井が高く、高層のいい空間の大ホールは、楽器の練習場所として学生たちに人気だ。

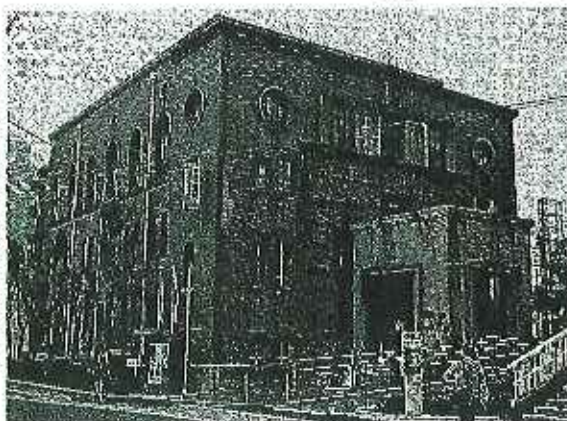
12日あった市民フォーラムでは、各団体の協力を得てきた群馬県研究所(群馬県沼田市)の橋本敏雄氏が、同内外の古い建物の保存法を紹介。地元のパネリスから、今後の市民や商

会で議論してもらい、保存・活用の方針を決めた。1年度に改修に取りかかるとを目標とする。入されるのか、採算が取れる計画をつくるとの意見も出た。

社会教育会館

京阪大津駅を降り、東へ少し歩くと見えてくるモダンな建物。昭和9年に建築された社会教育会館(旧大津公会館、大津市浜大津)だ。日本初の公民館として使用されるなど文化価値も高く、「昭和」のロマンが漂う風情あふれる周囲のビル群の中であらりと目立つ。築後約70年が経過し、老朽化が進んだことから、市民の間で保存と再活用を考える動きも出ている。(池田進一)

H18. 11. 05 産経新聞



昭和9年に建築された大津市社会教育会館。昭和ロマンを漂わす大津市浜大津

昭和ロマン建築 再活用期待

「当時3階の大ホールでダンスホールとして利用されたこともあった」とい、交差点の建物をしていたを象徴だ。正面玄関から入ると、真ん中が階段で、その両側に部屋が並ぶ。階段の手すりや各階のドアなどに、色々に細工が施されていて、見る人を魅了させる。昭和9年、大津商工会議所と図書館を併設して大津公会



館内で開かれた市民フォーラム

目下の悩点は建物の老朽化。70年たった市民からの要望も、築き直しては社会教育会館、昭和の野田が築き直したように「築き直し」として、大津の歴史を伝える建物として活用されることを目指している。

湖国のモダン建築

京阪電鉄浜大津駅の手前、線路に沿って長く延びた茶褐色の建物がある。毎日多くの人の目に入る存在だが、意外と由来が知られていない。この大津市社会教育会館は、そもそも、一九三四（昭和九）年に大津商工会議所と大津市立図書館とを併設した大津公会堂として建設

大津市社会教育会館

（大津市浜大津一丁目）
された。鉄筋コンクリート構造の三階建てで、地階もある。総工費八万四千円と伝え

る。戦後、民主的な社会教育の場所として公民館の設置が進められたことをうけて、一九四六（昭和二十一年）に大津市公民館となり、あわせて滋賀県立中央図書館もこの建物



スクラッチタイルの壁面が日に映える

作者不詳、非凡な意匠

に設けられた。公民館に改称したのちには、さまざまな市

民活動の舞台となっていたが、なかでも大ホールにおいて

る演劇・映画上演、音楽会、ダンス教室といった催しは滋賀県の戦後文化を語るうえで欠かせない。

デザイン上の最大の特徴は、細かくひっかいたような表面のスクラッチタイルの採用だ。フランク・ロイド・ライトが一九三三年に帝国ホテルに用いて以来、大流行した。水平方向の動きを強調するところもライト調である。

非凡なデザインだが、設計者も施工者もよく分からないのが残念だ。

念だ。（石田潤一 郎京都工織大教授）